第 14 回佐久新校再編実施計画懇話会

日時：令和４年 12 月 15 日（木）
18 時～19 時 30 分
会場：長野県佐久合同庁舎　講堂

＜次 第＞

１ 開　会

２ 挨　拶

３ 会議事項

（１）第 13 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめについて

（２）佐久新校の校地選定について

（３）新校の学びのイメージについて

（４）再編実施基本計画（案）について

（５）NSD プロジェクトについて

４　その他

第 15 回佐久新校再編実施計画懇話会について

【日時】３月末　18 時～19 時

【会場】オンライン

５　閉　会

【視聴用 URL・二次元コード】
（小諸新校）https://youtu.be/isBJ9fyNgFk
（伊那新校）https://youtu.be/gyWI1QRS9NA

（小諸新校）　（伊那新校）

佐久新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○＝新構成員

	区分	氏名	所属等
1	自治体	花里　英一	佐久市　副市長
2		吉岡　道明	佐久市教育委員会　教育長
3		茅根　健司	南佐久郡町村教育委員会連絡協議会　会長
4	産業界	坂川　和志	佐久商工会議所　副会頭
5		渡辺　仁	佐久総合病院　統括院長
6		白鳥　敬日瑚	マイクロストーン株式会社　代表取締役社長
7	学識経験者	堀内　ふき	佐久大学　学長
8	地域	廣末　恵子	社会医療法人恵仁会　医師
9		高橋　功	佐久地域振興局　局長
10	同窓会	吉岡　徹	野沢北高等学校同窓会　会長
11		中島　瑞枝	野沢南高等学校同窓会　会長
12	ＰＴＡ	木内　良夫	野沢北高等学校ＰＴＡ　会長
13		神津　かずみ	野沢南高等学校ＰＴＡ　会長
14		竹内　由貴	全佐久ＰＴＡ連合会　副会長
15	学校関係者	鹿取　俊彦	佐久中学校長会　会長
16		森泉　雄二	佐久小学校長会　会長
17	再編対象校	○石井　勇多	野沢北高等学校　生徒会長
18		○木内　夏乃	野沢北高等学校　生徒会副会長
19		○寺澤　恵美	野沢北高等学校　生徒会副会長
20		○金　　棟鎬	野沢南高等学校　生徒会長
21		小林　笑奈	野沢南高等学校　生徒会副会長
22		○佐藤　佳乃	野沢南高等学校　生徒会副会長
23		柳沢　敬	野沢北高等学校　校長
24		山下　純一	野沢北高等学校　教諭
25		井出　豊彦	野沢南高等学校　校長
26		木下　照美	野沢南高等学校　教諭

事務局

野沢北高等学校	
石川　順三	（教頭）・事務局長
山下　純一	
白石　克典	
神岡寿賀子	
清水　貴弘	

野沢南高等学校	
橋爪　俊彦	（教頭）・副事務局長
児平　修一	
宮内　孝明	
木下　照美	
山口　達之	

高校再編推進室	
山岸　　明	主幹指導主事
柳沢　勝美	主任指導主事（佐久新校担当）

第13回　佐久新校再編実施計画懇話会まとめ

日　時	令和４年（2022 年）11 月 14 日（月）　18 時 00 分～19 時 30 分
場　所	長野県佐久合同庁舎　講堂
出　席 **（敬称略）**	吉岡道明，花里英一，茅根健司，坂川和志，渡辺 仁，白鳥敬日瑚，堀内ふき，廣末恵子， 吉岡 徹，中島瑞枝，木内良夫，竹内由貴，神津かずみ，鹿取俊彦，森泉雄二，柳沢敬，山下純一，井出豊彦，以上 18 名）
傍聴者	13 名（報道１社）
事務局	野 沢 北 高 校：石川 教頭（事務局長），白石教諭，清水教諭 野 沢 南 高 校：橋爪 教頭（副事務局長），小平教諭 県教育委員会：宮澤推進室長、堀田企画幹，塩川施設係主査、斉藤施設係主事，柳沢主任指導主事
当日資料	○次第，第 12 回懇話会まとめ，佐久新校の校地選定結果報告（案）、佐久新校学びのイメージ、旧第６通学区の中学校卒業予定者数および募集学級数の推移と予測、NSD プロイジェクトスケジュールのイメージ、別冊：参考資料

会議事項

（１）第 12 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ
（２）佐久新校の校地選定について
（３）新校の学びのイメージについて
（４）募集開始年度及び募集学級数について
（５）今後のスケジュールについて

主な内容（要旨）⇒県教委　→事務局

＜校地選定について＞
⇒11 項目に則り検討した結果、「佐久新校（仮称）は野沢北高校の校地校舎を活用する」と提案。
　校舎に関しては、老朽化や新たな学びに対応する施設整備を考えると補足

［意見・要望］
○大前提として、生徒が日々の学びや通学等を精神的にも身体的にも、安心・安全に過ごせる校地を選んでいただきたい。
○自分には納得できない値もある。多くの人が納得できる結果となるよう、正しい数値を元に判断して欲しい。
○安全性については、交通量が少ない野沢南高校に優位性があるのではないか。
○将来的に小海線の存続は不透明。AI による無人運転のスクールバスの運行なども視野に入れると、自動車でのアクセスは重要な項目だと考える。
○両校で景色や採光に関して差異はあるのか。
　⇒校舎配置については今後の検討事項であるため、現段階で両校に差異はない。
○広域から生徒を募集するために、交通アクセスは重要である。
○校舎改築の際の工事車両についても、幹線道路沿いの方が良いと考える。
○自分の実測値では、資料と異なる距離が出ている部分もある。それぞれの距離については、最短距離で計測していただきたい。

＜佐久新校の学びについて＞
→今までの懇話会の意見を踏まえたイメージの提案。意見交換をしながら、さらにブラッシュアップしていく。

＜募集開始年度及び募集学級数について＞
⇒統合の方法（一斉統合か年次統合）については、意見交換をしながら今後検討していく。

＜今後のスケジュールについて＞
⇒佐久新校の施設整備のスケジュールについて説明

＜その他＞
・校地選定にあたり、事務局で実施したアンケートの報告

次回の予定

日　　時：令和４年 12 月 15 日(木)18 時～19 時 30 分
場　　所：長野県「佐久合同庁舎　講堂
会議内容：

佐久新校の校地選定結果報告

高校再編推進室

「佐久新校の校地選定に係る検討項目」に則り、下記のとおり検討した。

1　校地・校舎に係る環境

○検討項目 ◇考え方	検　討　結　果
①敷地（校地）の広さ ◇充実した施設を整備するには、敷地面積が広い校地が必要だと考える。	○授業で日常的に使用する施設（校舎、グラウンド、テニスコート）を比較すると、野沢北高校は 37,186 ㎡、野沢南高校が 34,636 ㎡であり、2,500 ㎡ほど**野沢北高校の方が広い。**
②校地拡張の可能性 ◇新たな学びを実現する施設を検討した際に、校地拡張の可能性も考慮する必要があると考える。	○両校ともに隣接する農地があることから、**両校に大きな差はないと考えられる。**
③近隣住民への影響 ◇学校での活動による騒音、校舎改築による日照権など、近隣住民への影響が少ない校地がよいと考える。	○両校ともに周辺に 50 軒程度の住宅がある。新校での近隣住民への影響は、校舎の改築規模や配置等が未確定のため、**現段階で判断することは困難である。** ○ちなみに、両校の学校活動に対して近隣住民からの苦情は、過去５年間で野沢北高校は０件、野沢南高校は４件である。
④駐車場施設の確保 ◇学校行事等で大勢の方が来校する際、駐車場の確保ができる校地が必要だと考える。	○現在の校内駐車可能台数は、野沢北高校が 93 台、野沢南高校が 55 台である。校内における駐車場の確保については、広い校地に優位性があると考えられるが、校舎の改築規模や配置等が未確定の**現段階では判断できない。** ○近隣の借用可能な駐車場施設については、**現段階で比較することはできないと考えられる。**
⑤周辺の道路環境 ◇新校での学びを考えると、大型バスや訪問者が訪れやすい周辺道路の環境も考慮したほうがよいと考える。	○現在の道路環境において、大型バスや訪問者が訪れやすい校地は、東西を走る国道 254 号線、南北を走る国道 141 号線等の基幹道路に囲まれ、高速道路のインターチェンジにも近い**野沢北高校である。**

2　通学環境

○検討項目 ◇考え方	検　討　結　果
⑥通学時の安全性 ◇歩道や自転車道など、通学の安全性が確保されている校地の方がよいと考える。	○野沢北高校は、交通量の多い幹線道路沿いを通学する危険性はあるが、幅の広い歩道や信号・横断歩道等が整備されている。 ○野沢南高校は、学校周辺道路の道幅が狭く、歩道が整備されていない危険な場所も存在するが、交通量は比較的少ない。 ○新校は、大規模校となることから、いずれの校地を活用するにしても通学路の安全性の確保は重要である。現状の両校周辺の通学路には、整備が必要と考えられる箇所もあるため、**現段階で判断することは困難である。**

⑦駅（中込・佐久平）からの距離 ◇広域から生徒を集めることを想定し、駅から近い場所に校地がある方がよいと考える。	○中込駅からの距離は、野沢北高校が 2.0km（徒歩 25 分）、野沢南高校が 1.7km（徒歩 20 分）であり、300m **野沢南高校の方が近い。**なお、新校における校舎配置によっては、**野沢南高校は現在よりも 100m ほど近くなる可能性も考えられる。** ○佐久平駅からの距離は、野沢北高校が 6.6km（自動車 13 分）、野沢南高校が 7.2km（自動車 16 分）であり、600m **野沢北高校の方が近い。**
⑧自動車でのアクセス ◇保護者の送迎によって通学する生徒もあることから、自動車でのアクセスの良さも考慮する必要があると考える。 ◇広域からの通学を考慮し、交通網の変化にも対応できる校地がよいと考える。	○現在の道路環境において、保護者の送迎による自動車でのアクセスの良さや将来的な公共交通機関の変化に柔軟に対応できるのは、幹線道路に囲まれた**野沢北高校の校地と考えられる。**

３　学習活動を支える教育環境

○検討項目 ◇考え方	検　討　結　果
⑨他の学校との交流の利便性 ◇他の学校との連携や交流がしやすい校地が必要だと考える。	○他の学校との交流活動における移動距離を考えると、大学・高校・中学校には野沢北高校の方が近く、幼保・小学校・児童館には野沢南高校の方が近い。実際にどの学校と交流するかで一長一短あるため、**両校に大きな差はないと考えられる。**
⑩地域との交流の利便性 ◇地域の施設や企業との連携、交流を想定し、生徒が移動しやすい校地が必要だと考える。	○地域の施設や企業との連携活動における移動距離を比較する上で、様々な連携先が想定され全ては網羅できない。実際にどの施設・企業と交流するかで移動距離は異なるため、**両校に大きな差はないと考えられる。**
⑪近隣施設（公共施設等）の有用性 ◇学校外の施設での活動を想定し、近隣の施設が使いやすい校地が必要だと考える。	○近隣の公共施設での活動における移動距離を比較する上で、日常的な利用が想定される野沢会館や総合運動公園等を比較すると、**両校に大きな差はないと考えられる。**

４　総　括

新校で学ぶ未来の子どもたちのことを考えた時、通学の利便性という面で「駅からの距離」は重要であるが、最も重視すべきは「新校で構想する学び」を実現する環境である。

新校では、広域から生徒が集まる「夢のある未来社会を地域と共創する佐久の学びの拠点校」として、地域の諸機関や大学等と連携した学習活動の展開を構想している。そのような学びを実現するためには、メディアラーニングセンターや地域連携協働室等のこれまでにない施設の設置も考えられることから、できるだけ広い校地が必要である。また、探究活動等における生徒のバス移動や講師等の来校の機会が増えることを考慮すると、周辺の道路環境も重要な要素である。

新校の校地候補として甲乙つけがたい両校の校地であるが、「新校で構想する学び」を重視する観点から総合的に検討した結果、下記のように判断した。

○佐久新校（仮称）は、野沢北高校の校地校舎を活用する。

【佐久新校　学びのイメージ】　2022. 12. 15

夢のある未来社会を地域と共に創る佐久の学びの拠点校

目指す学校像

- ○ 高い志の進路を実現し、地域・日本・世界に貢献する人を育む
- ○ 知的な創造力と活用力を磨き、自らの可能性を追求する人を育む
- ○ 深く真理を追究し、コミュニケーション力・表現力・発信力を育む
- ○ 多様な価値観を認め、固定観念にとらわれない柔軟な発想力を育む
- ○ 主体的、創造的に新時代を切り拓く、自立心とチャレンジ精神を育む

【佐久新校の学びの柱】

- ■ 他者と未来社会を創造する、豊かな人間性を育む学び
- ■ 文理にとらわれず、基礎学力を充実させるリベラルアーツ的な学び
- ■ 高い進路目標を実現する、地域と連携した学び
- ■ リーダーシップとフォロワーシップを育てる学び

【学びを支える「新しい普通科」システム】理数人文科学科（仮称）

人文科学選択群　＋　**理数科学選択群**

- ◇探究的な手法を学びの核とし、地域と連携した学習活動
- ◇確かな根拠に基づく真理の追究。
- ◇基礎学力に基づく探究活動。ラボからアイディアを発信。
- ◇「もっと学びたい」に応える、柔軟なカリキュラム
- ◇世界に通じるコミュニケーション能力をつける英語教育
- ◇主体的で個別最適な学びの支援。校外学修にも対応する進学重視型単位制。
- ◇アカデミックサポーター（ＯＢ・ＯＧ）との連携

１年次：必履修科目、共通履修科目を中心に基礎・基本の確実な習得
地域に注目：健康・医療・水・農業・宇宙・情報・文学・芸術　探究/課題研究基礎

＜未来社会を地域と共に考えるシステム＞

佐久エリアコンソーシアム

大学

医療機関

地元企業

自治体

研究機関

◆定時制課程［普通科］三修制導入：３年での卒業や全日制と連携を可能とする新システム◆

佐久新校(仮称)再編実施基本計画(案)と今後のスケジュール(予定)

高校再編推進室

佐久新校(仮称)再編実施基本計画(案)

1　再編統合対象校

野沢北高等学校、野沢南高等学校

2　募集開始(開校)年度

令和11年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であること、施設の整備期間等を考慮し、令和11年度を新校の募集開始年度とする。

3　活用する校地・校舎

〇〇〇高等学校

4　設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程　〇〇科　〇〇科　計8学級程度

定時制課程　普通科1学級

＊学科の名称等は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

普通科と特色学科を設置し、新たな学びに対応したシステムを導入する。
佐久地域の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には8学級程度が想定される。
東信地域全体の配置状況を考慮し、定時制課程を設置する。
※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

5　統合新校の学びのイメージ

別紙のとおり(佐久新校の学校像)

6　統合新校の施設設備について

新校の学びに必要な施設設備及び、高校施設の著しい老朽化と社会や学びの変化に対応し質的向上を図っていく。

12月22日
教育委員会定例会
で教育長報告

→

1月16日
教育委員会定例会
で決定

→

2月県議会
同意

第15回懇話会(3月末　オンライン開催)

〇議会同意の報告

〇来年度の検討事項及びスケジュール

Nagano School Design プロジェクト ～小諸新校～

みんなでつくる未来の学校
「学校づくり - ひとづくり - 地域づくり」

高校教育課
高校再編推進室

ＮＳＤプロジェクトとは【これまでの経過と理念】

施設の老朽化を考慮しつつ、必要な学校施設の整備を行う

1950年　文部省（現文部科学省）・日本建築学会
「鉄筋コンクリート造校舎の標準設計」を作成

長野県の県立学校でも、似たつくりの校舎が多数存在

この７０年ほどの間に社会は大きく変化

「学び」や「学び方の変化」に伴い、学校の「つくり」や「つくり方」を見直し
これからの時代 これからの学びにふさわしい学校空間の整備

教室棟（1968年建設）

県立学校学習空間デザイン検討委員会
最終報告書「長野県スクールデザイン2020」（2020年８月）

これからの時代：変化が激しく予想困難な時代

1　どんな時代や状況にも対応できる、フレキシブルな空間

これからの学び：主体的な学び、探究的な学び／個別最適な学び、協働的な学び

2　いろいろな学び・さまざまな人数 ⇒ 多様性をもつ学びの空間

学習空間の捉え直し：生徒・教職員・地域にとって必要な要素を包含した施設

3　「学習」・「生活」・「執務」・「共創」という4つの要素に整理

空間の「質」：子どもたちが活き活きと過ごす空間

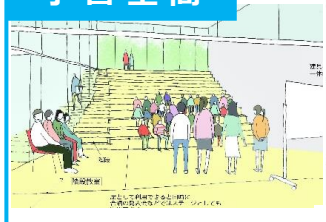
4　機能性と快適性、空間の「重ね使い」、屋外とのつながり、家具などの重要性

地域と共生する学校：地域にとってのかけがえのない拠点施設

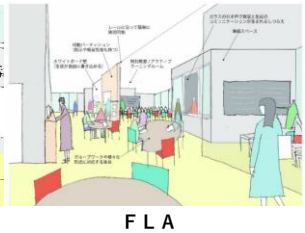
5　県の多様な自然環境・地域性を考慮、地域施設との連携や役割の分担を検討

県立学校学習空間デザイン検討委員会
最終報告書「長野県スクールデザイン2020」（2020年８月）

学 習 空 間



階段教室とフレキシブルホール



ＦＬＡ
（フレキシブルラーニングエリア）

生 活 空 間

ラウンジ・ロッカー

執 務 空 間

大職員室

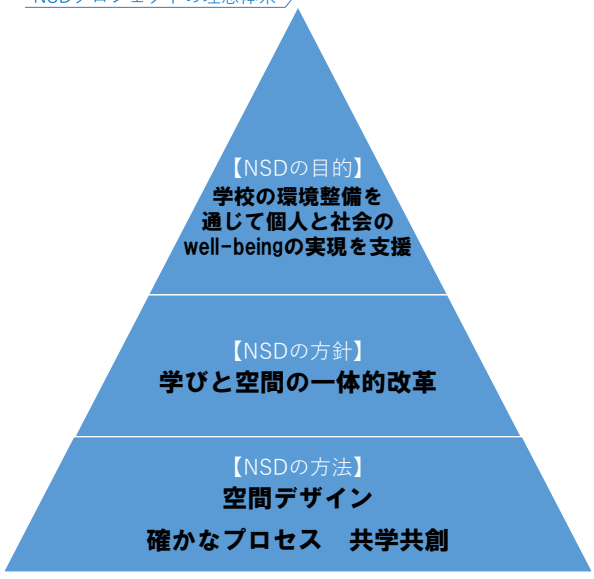
共 創 空 間

地域連携協働室

NSDプロジェクト

「学校づくり・ひとづくり・地域づくり」

NSDプロジェクトの理念体系



【NSDの目的】

『学校の環境整備を通じて
個人と社会のwell-beingの実現を支援』

長野県教育委員会が目指しているのは、『個人と社会のwell-beingの実現』すなわち、一人一人の多様な幸せとよりよい社会の実現。

NSDは、多様な価値観を持つ誰もが、激変する予測不能な社会の中でも柔軟に対応しながらよりよく生きていけるために、学びの質の向上と学び続ける個人と社会を支援していきます。

【NSDの方針】

『学びと空間の一体的改革』

NSDは、学びの質の向上と学び続ける個人と社会を支援するため、一人一人の多様な教育的ニーズに応える学びと空間の一体的な改革を進めていきます。

空間については、児童生徒や教員がいきいきと活動でき、地域の方々にとっても学びや交流の拠点となる豊かな空間を整備していきます。

【NSDの方法】

『空間デザイン』『確かなプロセス』『共学共創』

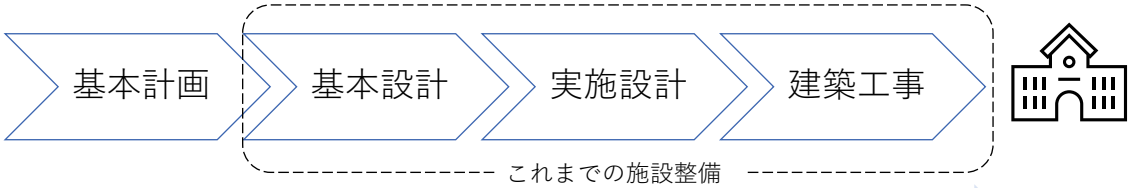
「長野スクールデザイン2020」の提言をもとに空間デザインを行いつつ、また、ワークショップ等を通して、建築専門家と使用者となる学校や地域が意見交換を行い、使用者や建築専門家が基本計画の策定から関わるプロセスを大事にしていきます。

NSDを通して学校と地域が共に学び、新しい社会を共に創る、これからの時代にふさわしい学校づくりのプロジェクトを進めていきます。

小諸新校開校までのスケジュール（予定）

※変更の可能性あり

業者契約	基本計画	基本設計	実施設計	開校
R4.12月	R5.6月	R5.12月	R6.11月	R8.4月



NSD方式　基本計画から工事監理まで建築専門家が参画

これまでの施設整備

・基本計画について、県教委及び営繕部局で策定（画一的な施設整備）
・基本設計から建築専門家が参画（意見の反映できる幅がせまい）

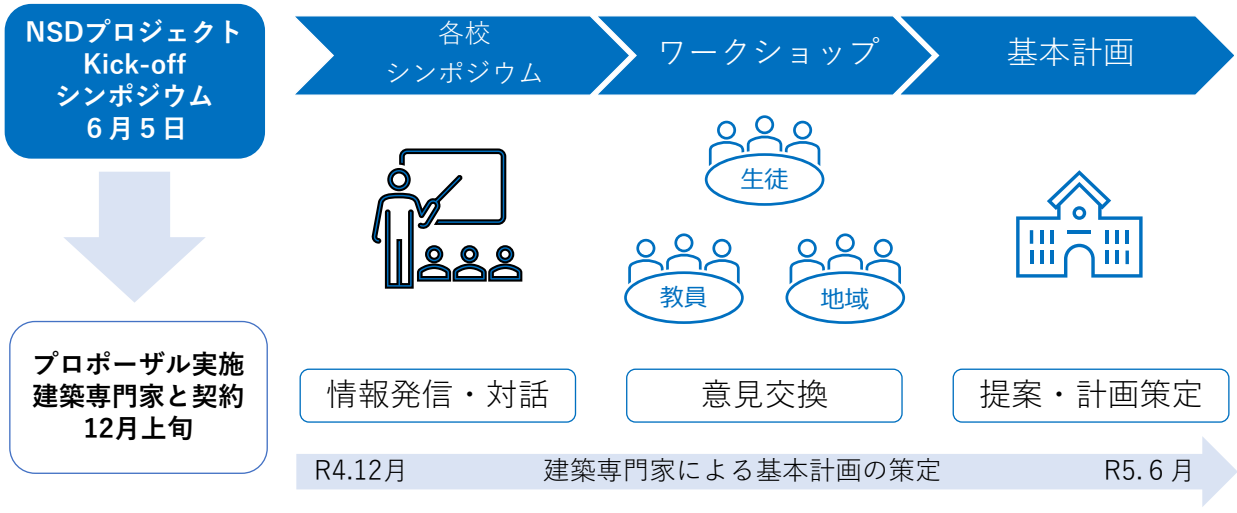
NSDの施設整備

・基本計画から建築専門家が参画し、生徒、教員、地域と意見交換を重ねながら策定

生徒、教員、地域の意見を設計に反映しやすいプロセス！

「プロセス」　生徒、教員、地域と意見交換を重ね、建築専門家により基本計画へ反映

シンポジウム、ワークショップ等により、多様な意見を基本計画に反映



ＮＳＤプロジェクト　小諸新校施設整備事業プロポーザル

７月末　　基本計画策定支援業務委託プロポーザル公告

９月25日　一次審査により下記の５者を二次審査参加者として選定
　〇コンテンポラリーズ＋第一設計共同企業体
　〇らいおん＋HAGISO共同企業体
　〇（株）カワグチテイ建築計画
　〇齋藤和哉・YWA・ティーハウス設計共同体
　〇西澤奥山小坂森中共同企業体

11月６日　二次審査（会場：小諸高校音楽ホール　9:00から）

NSDプロジェクト
プロポーザル二次審査会の様子はこちら

YouTubeライブ配信【URL】
https://youtu.be/isBJ9fyNgFk

NSDプロジェクト
Kick-off シンポジウムの様子はこちら

YouTubeアーカイブ配信【URL】
https://www.youtube.com/watch?v=Ip2BZ6qs96I

県立学校学習空間デザイン検討委員会
最終報告書「長野県スクールデザイン2020」はこちら

長野県ホームページより
https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/koko/dezain/toppage.html